

# 北海道浮魚ニュース

平成 24 ( 2012 ) 年度 15 号

2012 年 8 月 31 日

道総研 函館水産試験場

ホームページ : [http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki\\_index.htm](http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki_index.htm)

## スルメイカ漁場一斉調査結果 (道南太平洋海域)

道南太平洋の 8 月下旬のスルメイカ分布密度は昨年を上回り、過去 5 年との比較では中位の値であった。魚体サイズは過去 5 年平均より大きい。

釧路水試調査船北辰丸及び函館水試調査船金星丸で実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間 : 8 月 21 日 ~ 24 日 ( 北辰丸 )、8 月 23 日 ~ 24 日 ( 金星丸 )
- ・ 調査海域 : 浦河沖 ~ 下北半島東沖 ( 北辰丸 )、函館沖 ( 金星丸 )

昨年及び過去 5 年 ( 2007 ~ 2011 年 ) のデータと比較しました。

### 1. 水温分布 ( 図 1、2 )

漁獲調査点 4 地点の表面水温は 21.8 ~ 24.8 ( 昨年 21.4 ~ 25.9 )、水深 50m の水温は 11.8 ~ 19.4 ( 昨年 9.2 ~ 17.1 ) で、共に木直沖 St.1 と下北半島東沖 St.8 で昨年を上回り、浦河沖 St.15 と函館沖 St.16 で昨を下回りました。海域全体の水深 50m 層の水温は、渡島太平洋岸から日高湾にかけての海域で水温 10 ~ 12、津軽海峡以南で水温 18 以上となっており、昨年同時期に木直周辺に見られた低水温の海域が認められなかったほかは、昨年と似た水温分布となっていました。

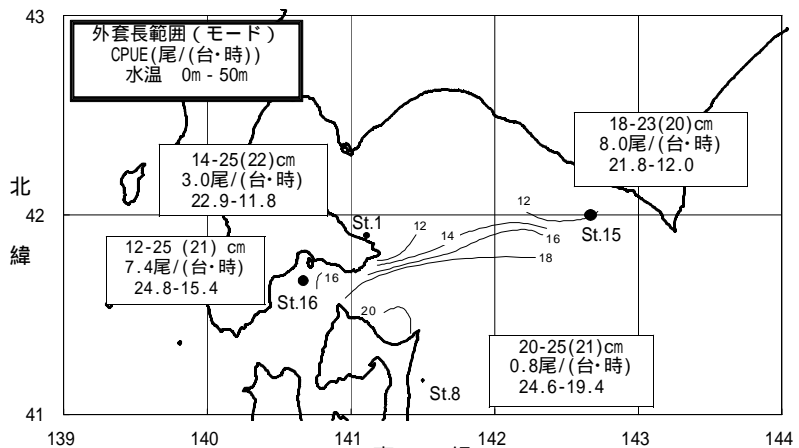


図 1 2012 年度の漁獲調査結果と水温 (8 月 21 ~ 24 日、北辰丸・金星丸) は漁獲調査点を示し面積は CPUE に比例。等温線は 50m 水深の水温分布

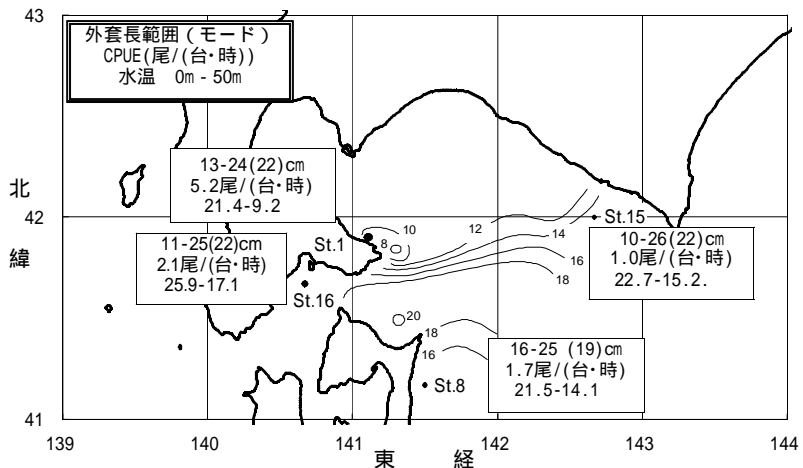


図 2 2011 年度の漁獲調査結果と水温 (8 月 17 ~ 26 日、北辰丸・金星丸) は漁獲調査点を示し面積は CPUE に比例。等温線は 50m 水深の水温分布

表 1 スルメイカ漁場一斉調査（道南太平洋 8 月）の CPUE と外套長の経年変化

	2007(H19) 8/20-8/24	2008(H20) 8/18-8/22	2009(H21) 8/17-8/20	2010(H22) 8/19-8/25	2011(H23) 8/17-8/26	2012(H24) 8/21-8/24
St.1(木直沖)CPUE	-	0.8	10.3	0.4	5.2	3.0
St.8(下北半島東沖)CPUE	6.6	-	7.8	0.2	1.7	0.8
St.15(浦河沖)CPUE	-	30.7	91.3	1.1	1.0	8.0
St.16(函館沖)CPUE	1.7	-	-	3.1	2.1	7.4
平均CPUE (尾/(台・時))	4.2	15.8	36.5	1.2	2.5	4.8
外套長の範囲(cm)	16-29	15-23	9-26	12-26	10-26	12-25
外套長モードの範囲(cm)	21	19-20	20-22	18-22	19-22	20-22

## 2 . 分布密度

漁獲調査点 4 地点の CPUE（2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数）の平均は 4.8 で昨年の平均（2.5）を上回り、過去 5 年との比較では中位の値でした。最も分布密度が高かった調査点は浦河沖 St.15 でした。（図 1、表 1）。

## 3 . スルメイカの大きさ

スルメイカの外套長は、調査点全体で 12 ~ 25cm（昨年 10 ~ 26cm）の範囲にありました（図 1、3、表 1）。調査海域全体の外套長のモード（最も多く漁獲されたイカの大きさ）は 21cm（昨年 22cm、過去 5 年平均 20cm）で、全体的な魚体サイズは過去 5 年平均より大型でした。また、外套長のモード

は昨年より小さくなっていましたが、魚体サイズのばらつきが大きかった昨年と異なり、18cm 未満の小型の個体はほとんど見られませんでした。（図 3）。

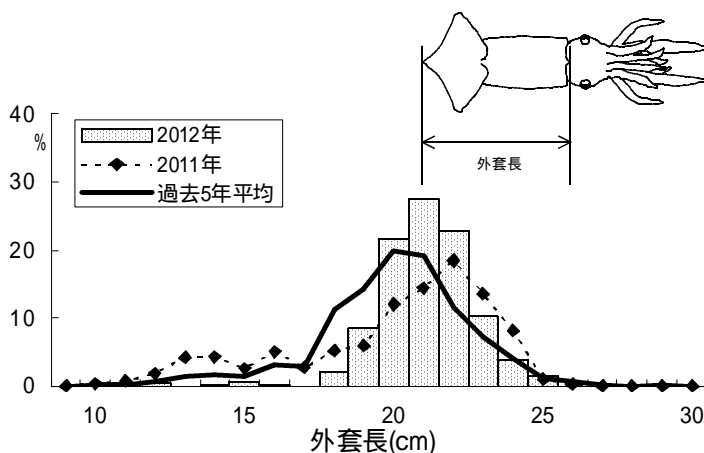


図 3 海域全体の外套長組成

（文責：函館水産試験場調査研究部、TEL：0138-57-6056 直通、FAX：0138-57-5991）